

ノハラツグミ *Turdus pilaris* の岩手県初記録

藤井忠志¹・斉藤友彦²・小林光憲²・澤田啓²・塩満節子²・伊藤信矢²・
杉村克³・米倉達夫⁴・米田正栄・村井全司

The First Record of Fieldfare *Turdus pilaris* in Iwate Prefecture, Japan.

Tadashi FUJII¹, Tomohiko SAITO², Mitsunori KOBAYASHI², Satoshi SAWADA²,
Setsuko SHIOMITSU², Nobuya ITO², Masaru SUGIMURA³, Tatsuo YONEKURA⁴,
Masaei MAITA, Zenshi MURAI

- 1 岩手県立博物館. 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34. Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.
- 2 岩手県滝沢森林公園野鳥観察の森ネイチャーセンター. 020-0605 岩手県滝沢市砂込 1533-1. Nature Center in Iwate Prefectural Takizawa Forest Park, Takizawa 020-0605, Japan.
- 3 日本野鳥の会宮古支部. 027-0031 宮古市八木沢 3-12-7. Miyako branch office, Wild Bird Society of Japan, Miyako 027-0031, Japan
- 4 日本野鳥の会もりおか支部. 020-0004 盛岡市山岸 4-29-7. Morioka branch office, Wild Bird Society of Japan, Morioka 020-0004, Japan.

Abstract

We observed a Fieldfare *Turdus pilaris* at the Nature Center in Takizawa City, Iwate Prefecture, Japan. One Fieldfare stayed there from December 24, 2015 to January 23, 2016. We identified it as an adult winter plumage of Fieldfare from its features. This is the first record in Iwate Prefecture.

はじめに

日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会2012)では、ノハラツグミは迷鳥に位置づけられ、全国的にも珍しい野鳥とされている。近年、デジタルカメラ・デジタルビデオカメラの普及から、日本全国で公表・非公表を問わず、かなりの生態画像や写真が記録されている。しかし、岩手県においては、初の記録と考えられることから、観察記録をとどめておく。

1 **種名・観察個体数**：ノハラツグミ *Turdus pilaris*
成鳥 1羽

2 **観察者名**：藤井忠志・斉藤友彦・小林光憲・澤田啓・塩満節子・伊藤信矢・杉村克・米倉達夫・米田正栄・村井全司

3 **観察日時・場所**：2015年12月24日12:00(発見)~2015年12月26日および2016年1月23日の4日間にわたり、延べ4回確認した。場所は岩手県滝沢市砂込1533-1岩手県滝沢森林公園 野鳥観察の森ネイチャーセンター(北緯39度48分40秒, 東経141度

10分08秒)。



図1 ネイチャーセンター内水場のノハラツグミ
2015年12月24日(撮影：杉村 克)

4 **観察距離**：約20m離れた地点の室内から、8倍の双眼鏡や20倍のフィールドスコープを用いた観察とデジタルカメラ(Olympus SP-100EE)等での記録撮影を行った。

5 **観察した環境**：岩手県農林水産部森林保全課所管の森林公園であり，鳥獣保護区，保健保安林，干害防備保安林に指定され，平成18年度に指定管理者制度が導入され，小岩井農牧株式会社が指定管理者として管理運営を行っている．ネイチャーセンターは，針葉樹や広葉樹が混交する滝沢森林公園内に位置することと，来園者の野鳥観察のための生物誘致を目的として日常的に給餌が行われているため，多様な野鳥が飛来する．同センターでは，開館日における野鳥の確認種を記録している．

6 **形態に関する記述**：体サイズはツグミ *T. naumanni* とほぼ同じだが，全体に灰色っぽく，尾羽が長かった．背は茶色，喉に横班があり，眉の白が薄かった．また眼先から眼下までが黒かった．

7 **種を同定した規準**：ヒタキ科ツグミ属鳥類で，全長が20cm以上でノハラツグミに類似する種としては，ウタツグミ *T. philomelos* とヤドリギツグミ *T. viscivorus* の2種があげられ，身体のサイズと羽毛の色に注目して同定を行った．ウタツグミはムクドリ *Spodiopsar cineraceus* より小さく，ヤドリギツグミはヒヨドリより小さく，ノハラツグミはムクドリより小さい．ウタツグミとヤドリギツグミの上面は，緑色味のある褐色で，胸以下が白地に黒褐色の斑がある．これに対し，ノハラツグミの上面から後頭は青灰色で，胸と脇はオレンジ色をおびた黒斑があることから，ノハラツグミと同定した（写真1）．

8 **観察した行動**：2015年12月24日は朝からツグミ，ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* がネイチャーセンター内の水場に多数飛来した．11:20~12:42にかけて，その群れの中に，ツグミよりやや大きめのノハラツグミ1羽が混じっていた．行動はツグミよりやや緩慢であった．翌12月25日14:08，センター水場の上空にあるヒメグルミ *Juglans mandshurica* var. *cordiformis* の枝に，ツグミ10羽ほどの群れがとまり，1羽ずつ順番に降りる中に1羽のノハラツグミが観察された．ノハラツグミはツグミの給水後に給水した．12月26日，前日同様に10:53ネイチャーセンター水場の上空にあるオニグルミ *Juglans mandshurica* の枝に，ツグミの群れがとまり，複数個体が順番に給水に降りる中に，1羽が観察された．前日とは異なり，ノハラツグミはツグミの給水と同時に給水した．いずれの観察日においても，給水後，上層木に向かって飛び立ったが，行き先，採餌行動，ねぐらなどについては追跡できな

かった．その後，約1ヶ月程度観察できず，2016年1月23日に，センター内池の上のヒメグルミに一瞬だけ飛来し，即時，飛去した．



図2 ネイチャーセンター内水場（小）で給水するノハラツグミ（2015年12月25日 撮影：米田正栄）



図3 ネイチャーセンター内水場（小）で給水するノハラツグミ1羽とツグミ2羽（2015年12月26日 撮影：米田正栄）

9 **過去の記録とその文献**：日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によると，1960年1月の長野県での記録を皮切りに不定期に確認されている．確認時期としては10月~2月で，冬に渡来する冬鳥・迷鳥として扱われている．特に東北地方では宮城県での1997年1月と2002年2月の2例だけである．

10 **その他**：第一発見者 ネイチャーセンター職員

11 **考察**：本種はヨーロッパ北部からレナ川流域にかけて繁殖し，ヨーロッパ中部および南部・小アジアからイランにかけて越冬する（五百沢2000）．従って，日本では冬期における渡来記録のみにとどまり，繁殖生態等詳細は不明，かつ全国的にみても決して多いとは言えない．なかには，本種が掲載されていない図鑑すら存在する．さらに，岩手県野生生物目録（岩手県生活環境部自然保護課2000）や岩手県産鳥類目録お

よび岩手県産珍鳥詳細記録(藤井・四ツ家 2008)にも本種に関する記録が記載されていないことから、今回の観察が岩手県における初記録と考えられる。しかし、どのようなルートをたどって本県に渡来したかは不明である。今後も、本種に関するデータを蓄積し追跡することで、そのルートが解明できるものと思われる。なお2016年1月23日以降、本種の姿を確認できなくなったことより、最終確認日を2016年1月23日とした。滞在期間は31日以上と推定された。

引用文献

- 藤井忠志・四ツ家孝司(2008)岩手県産鳥類目録および岩手県産珍鳥詳細記録。岩手県立博物館研究報告25:1-11。
- 五百沢日丸(2010)日本の鳥550 山野の鳥,359pp。文一総合出版,東京。
- 岩手県生活環境部自然保護課(2000)岩手県野生生物目録,274pp。岩手県,盛岡。
- 日本鳥学会(2012)日本鳥類目録(改訂第7版),438pp。日本鳥学会,三田。

要 旨

岩手県滝沢市のネイチャーセンターで1羽のノハラツグミを観察した。1羽のノハラツグミは2015年12月24日から2016年1月23日まで滞在した。その特徴から、成鳥冬羽の個体と同定した。これは、岩手県初記録である。

キーワード: ノハラツグミ, ネイチャーセンター, ツグミ, 迷鳥